

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 7 部門第 1 区分

【発行日】 平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【公開番号】 特開 2005-19252 (P2005-19252A)

【公開日】 平成 17 年 1 月 20 日 (2005.1.20)

【年通号数】 公開・登録公報 2005-003

【出願番号】 特願 2003-183494 (P2003-183494)

【国際特許分類】

H 0 1 M 14/00 (2006.01)

C 0 7 D 417/14 (2006.01)

H 0 1 L 31/04 (2006.01)

【F I】

H 0 1 M 14/00 P

C 0 7 D 417/14

H 0 1 L 31/04 Z

【手続補正書】

【提出日】 平成 17 年 11 月 30 日 (2005.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 特許請求の範囲

【補正方法】 変更

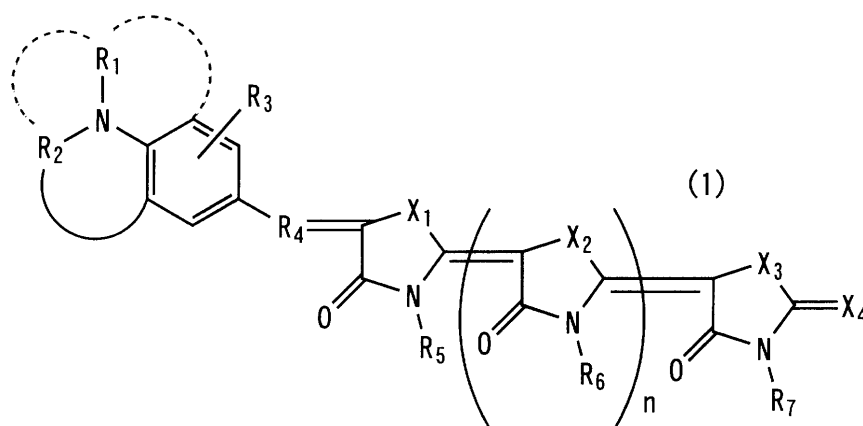
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

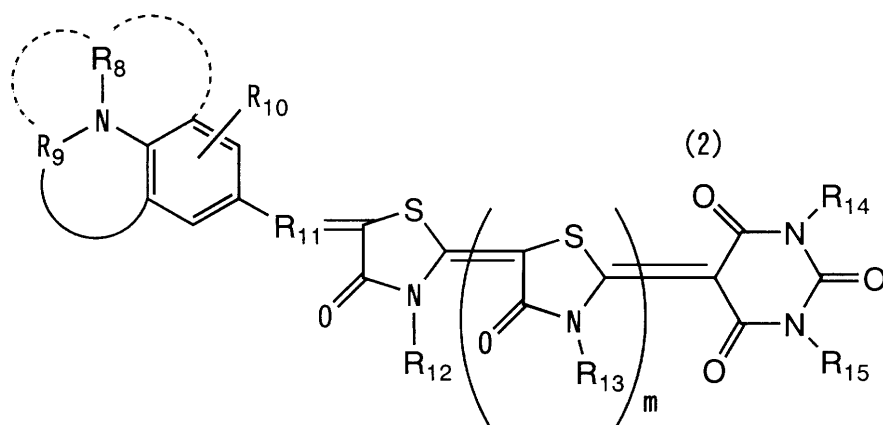
一般式 (1) で示される化合物、あるいは一般式 (2) で示される化合物の中で少なくとも一種を用いることを特徴とする光電変換材料。

【化 1】



(一般式 (1) において、 R_1 はアルキル基、アラルキル基、アルケニル基、アリール基、ヘテロ環を示し、置換基を有していてもよい。 R_2 は窒素原子と、窒素原子に隣接するベンゼン環と結合して環状構造を形成する連結基を示す。また、 R_1 と R_2 との間、あるいは R_1 と窒素原子に隣接するベンゼン環との間で結合して環を形成してもよい。 R_3 は水素原子、アルキル基、アルコキシ基、あるいはハロゲン原子を示し、置換基を有していてもよい。 R_4 は二価の連結基を示す。 $R_5 \sim R_7$ はアルキル基、アリール基、ヘテロ環を示し、置換基を有していてもよい。 $X_1 \sim X_3$ は酸素原子、硫黄原子、シアノ酢酸基、ジシアノメチレン基を示す。 n は 0 または 1 を示す。炭素-炭素二重結合は、E 型または Z 型の何れで

【化 1 0】



【請求項2】

【請求項 3】

請求項 2 記載の半導体電極を用いることを特徴とする光電変換素子。